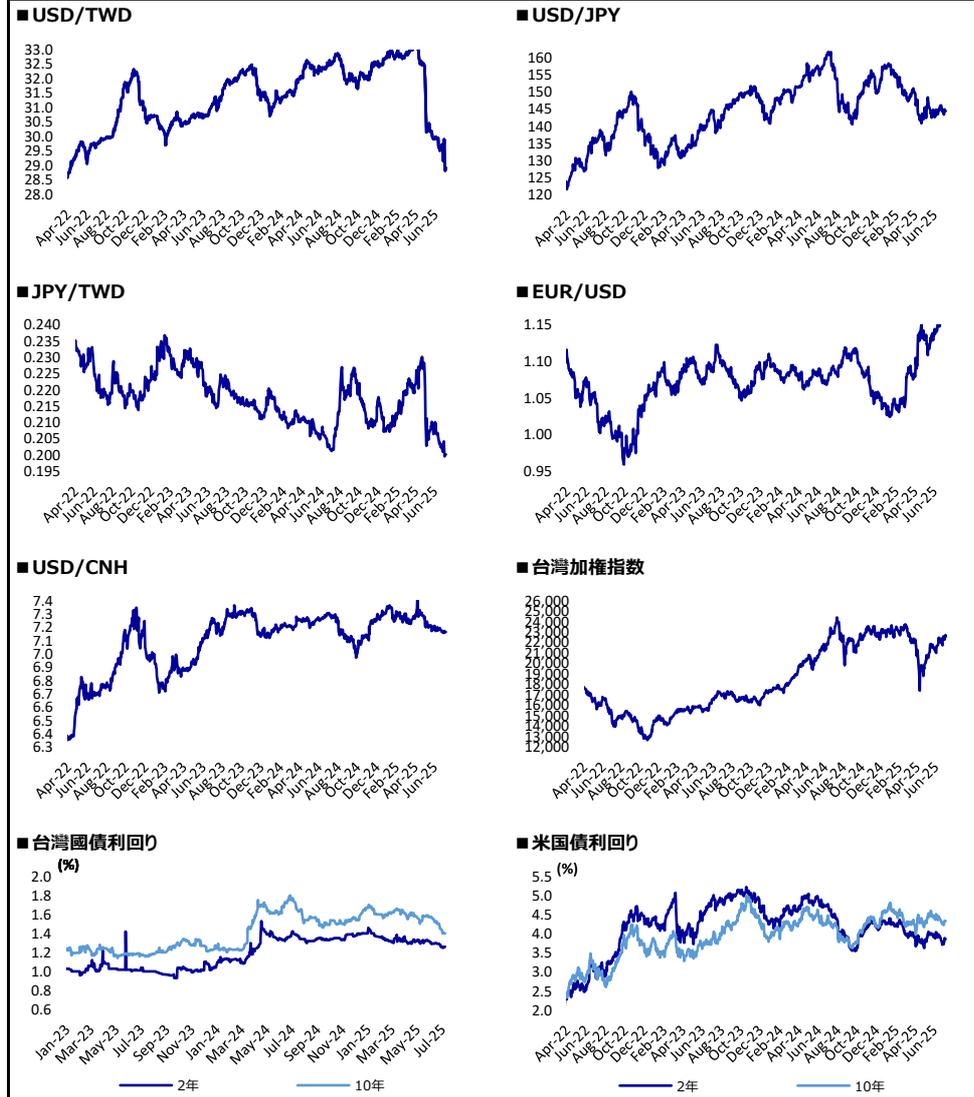


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは上値重い展開。29.140でオープン後、リスク許容度の増加で、外資による資金の流入に加え、輸出企業の月末換金売りも入り、一時28.90近辺まで反落。その後は、台湾当局のポジション調整で、29.180でクローズ。7/1、29.160でオープン後、前日の状況が続き、一時29.048近辺まで反落したが、台湾当局のポジション調整で、週間高値29.902でクローズ。7/2上値重い展開。29.880でオープンしたものの、外資による資金流入が続き、最終的には前日比2.4%ドル安台湾ドル高の29.185でクローズ。7/3、29.170でオープンした後、海外市場におけるドル安に加え、外資による資金流入で、ドルは一時28.95近辺まで下落。7/4ドルの値下がりが輸出企業の換金売りを誘い、売りが売りを呼ぶ展開となり、ドルは一時28.800近辺まで割り込む。最終的には前週比0.85%ドル安台湾ドル高の28.931でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は821.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは上昇。144.35でオープン後、特段新しい材料がない中、144円台半ば付近でレンジ相場となった。7/1、144.50でオープン後、ドル売り優勢の展開となり、欧米時間では144円を割り込んだ後、米金利の低下を背景に、144円前後で上値の重い展開。7/2米金利の低下やドル売りが続き143円を割り込んだものの、予想を上回る米経済指標や減税法案上院通過で143円台半ばまで買い戻された。7/3、143.39でオープン後、米金利上昇で一時144円台前半まで買われたものの、欧米時間に入ると、予想を下回るADP雇用統計を受け、全般的なドル売りで143円台半ばまでに反落。7/4、143.80でオープン後、暫く同水準で底堅く推移した後、欧米時間に入り、米雇用統計の上振れを受け、米債利回りの上昇に伴いドル全面高で145円前後まで上昇。最終的には前週比0.03%ドル高円安の144.61でクローズ。

■ USD/TWD 予算レンジ：28.500-29.000
今週はUSD/TWD引き続き上値重い展開を予想。台米間で関税交渉が続く中で、中銀は最近台湾ドルの切り上げに強く介入していない。米国が9日、大半の国との貿易協定を発表することから市場は慎重な姿勢。

■ USD/JPY 予算レンジ：142.50-146.50
今週のUSD/JPYレンジ推移となる予想。現在米国との関税交渉は成立しておらず、摩擦は再び激化し、欧州連合、インド、日本などの主要貿易相手国は交渉の重要な段階にある。米国が関税を引き上げを開始する9日を前に、市場は慎重な姿勢で、引続きもみ合い推移か。

今週の予想

7/7 (MON)	
7/8 (TUE)	日5月経常収支, 台湾6月CPI/進出口/貿易収支
7/9 (WED)	中国6月PPI/CPI
7/10 (THU)	日6月卸売物価指数
7/11 (FRI)	英5月GDP

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。